

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	特別養護老人ホーム運営支援	会計	一般会計	事業No.	198	施策順No.	35-009
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-1-4-10-9		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名			介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	公設民営の特別養護老人ホーム(飯田荘・第2飯田荘)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		施設数		2	2	2	2		
	意図	公設民営の特別養護老人ホームの円滑な運営を支援する。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		適切に運営された施設の割合(%)	100	100	100	100	100	100	A
		総事業費に対する運営費支出額の割合							
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	飯田荘・第2飯田荘が円滑に運営された。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯田荘・第2飯田荘は、平成20年4月に社協へ指定管理による民営化を実施。円滑な移行のため職員の派遣等の経過措置を実施し、運営費については、ルールを定めて一般会計より支援する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 飯田荘と第2飯田荘は一括とし、両荘の損益を通算し、年度ごとの収支不足額を協議の上補填する。 2 飯田荘及び第2飯田荘の指定管理者の管理に関する覚書により市職員から社協職員への事務引継ぎが完了し、社協職員による管理体制に移行した。	1 施設数	1 2施設
23年度実施計画	特別養護老人ホーム飯田荘及び特別養護老人ホーム第2飯田荘の指定管理者の管理に関する覚書(平成20年3月31日締結)に基づき、飯田市は2荘の経営において、平成23年度以降、損失が出た場合は、飯田市社会福祉協議会に損失補填を行うものとする。	1 施設数	1 2施設

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		45,000	45,000	17,000	
	計 (A)		45,000	45,000	17,000	
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計 (B)			0		
	トータルコスト A+B			45,000		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>委託を受けた社協に対し敬意を評する。</li> <li>介護保険事業の運営が厳しいといわれる中で特養を運営していくことに対し職員等のように受け止めているのか。</li> <li>指定管理により市は手放してしまうのではなく高齢者の施設対応はどうするのか考えていくべきだ。</li> </ul> 成果指標について、客観的に判断できる成果指標の設定を検討して頂きたい。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	特別養護老人ホームが円滑に運営され高齢者が安心して暮らせるようになる。	施策の成果指標又はムツ指標	安心していきいき暮らせる 安心して暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・社協を指定管理者とし、特別養護老人ホームが円滑に運営されたことで高齢者福祉の推進が図られた。		
	後期に向けた課題	・安定した施設運営継続の取組み。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・両荘の運営費を試算し、経営シミュレーションを行うことで、適切な運営について検討した。		
	後期に向けた課題	・円滑な施設運営を継続していくための方策の検討(人件費、コスト意識等)		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・施設運営費用について、歳入・歳出額の年度ごとの比較を行い、コスト削減のシミュレートを行った。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・市からの運営支援や多床室の運営により、ユニット型に対して受益者の負担割合の軽減が図られた。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①社会福祉協議会による指定管理者制度に基づく適切な施設運営が行われた。 ②市は、人的、財政的運営支援を行った。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	・特別養護老人ホームの円滑な運営により、高齢者福祉の推進が図られた。		
	後期に向けた課題	・収支バランスのとれた施設運営の検討。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--